

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば）7月号

1. らっきょう組合長会が県庁を表敬訪問

福部らっきょう生産組合長会の宮本組合長は6月17日、鳥取県庁や市役所を訪れ、洗いらっきょう10kgを贈呈した。

らっきょうの販売やらっきょう根葉切り機の開発、品質向上に向けた施設整備の支援など様々な協力を得ていることから毎年訪問している。令和2年産砂丘らっきょうの販売の終盤を迎え、感謝の意と情勢を報告した。

鳥取県農林水産部の西尾部長は「鳥取の重要特産物であるらっきょうを贈呈していただき、ありがたい。厳しい環境のなかで県としても微力ではあるが生産に協力したい」と感謝を述べた。



2. 智頭産リンドウ選花開始

智頭支店は6月19日、特産「智頭リンドウ」の選花作業を八頭郡智頭町にある智頭花き集出荷施設で開始した。初選花には、鮮やかな濃い紫に色付いた約700本が持ち込まれた。

今年の生育は病害虫の影響が少なく、暖冬傾向により順調に進んでおり、花付きや花色・葉色とも良く、上々の仕上がりになっている。出荷のピークは需要期となるお盆前で姫路、福岡、広島市場に10月下旬まで出荷する。同JAでは期間中、10万本、約600万円の出荷・販売を目標に取り組む。



3. 涼で新型コロナウイルスを吹き飛ばす

郡家支店は、来店した組合員・利用者を職員15人が浴衣姿で出迎え、窓口業務を行った。

この取り組みは、支店行動計画の一環として、同支部女性会の着付けグループと連携し、普段とは違う姿を披露することで多くの人に来店してもらい、少しでも涼を感じてもらおうと毎年実施している。来店客からは「いつもと雰囲気違って良い」「涼しそう」と好評であった。



4. 継続は力 女性会の意見をJA事業の力に

JA鳥取いなば女性会は6月24日、同JA役員との懇談会を鳥取市のJA本店で開いた。

女性会役員と同JA役員など30人が出席し、JA事業の取り組みについて、女性会役員らが利用する立場で感じる女性視点の意見を代表して伝え、意見交換した。

女性会の前田会長は「会員の意見要望を役員に直接伝えられる良い機会。継続して要望を伝え、JA事業の向上につなげたい」と話した。

